

入選

勇気のひとこと

岡山県 児島中学校

二年 三原 瑚子

「ゼーゼー、ヒーヒー。」

私のうしろから聞こえてきました。

母と二人で買い物に行ったとき、お盆前だったせいか、店内は混雑していました。カゴをいっぱいにしてレジに行くと、長い列ができていました。

そこに並んでいると、うしろから荒い息が聞こえてきました。振り返ると、押し車を押したおばあさんが立っていました。押し車の上には、スポーツドリンクとシキビが置いてありました。首からはダラダラと汗を流し、とても苦しそうに見えました。

私は前から4番目、おばあさんは5番目です。私が心の中で（大丈夫かな？）と心配していると、母が、「大丈夫ですか？ 私は買う物がたくさんあるのでお先にどうぞ。」

と大きな声で言ったのです。その声に気づいた、私の前のカートに小さな子どもを乗せたお母さんも、

「私も急いでないので、どうぞ。」

と言いました。そして、その前の作業着を着て、お弁当とお茶を持った男の人も、

「どうぞ、どうぞ。」

と言い、おばあさんは3人抜かして一番前に行くことができました。

おばあさんは、なにかを言いながら頭を下げ、会計をしたのですが、なにを言っているかは聞き取れませんでした。会計が終わると、その場でスポーツドリンクを開けて、ゴクリゴクリと飲んで、

「みなさん、ありがとう。助かりました。」

と言って、すてきな笑顔を見せてくれました。

作業着を着た男の人と、子ども連れのお母さんと母と私で、顔を見合わせてニコッと笑いました。全然知らない3人の見事な連係プレーでした。おばあさんは、店を出るまで何度も何度も振り返りながら、頭を下げていました。

やっと私の番になると、レジの人にも、

「先ほどはありがとうございました。」

と言われました。支払いが終わり、商品をエコバッグに入れながら、

「母さんは大きな声で言って恥ずかしくない？ 私も気づいたけど。」

と言ったら、母は、

「言わずに後悔する方がいやじゃろ。見て見ぬふりをするのは、もっといやじゃし。」

と笑っていました。

私はその日一日、とても幸せな気持ちでした。今でも、そのおばあさんがスポーツドリンクを飲んだあとの笑顔が忘れられません。

これからは、気づいたら勇気を出して、話しかけられるようになりたいです。